

授業科目名・形態	精神保健福祉援助演習Ⅰ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡和志・阿部俊彦	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

本科目は精神保健福祉士に求められる基本的な援助技術について、精神障害者に関する相談援助の事例を用いることにより、他援助技術系科目（援助技術）との共通点や精神障害者の特性を踏まえた相談援助の展開について学ぶ。さらに、地域を基盤とするソーシャルワークの展開、地域を対象とした援助技術の展開を理解する。

【到達目標】

- (1) 演習を通して、精神保健福祉士に求められる基本的な援助技術を相談援助の事例を通して習得できるようになる。
- (2) 地域を基盤とするソーシャルワークの展開、地域を対象とした援助技術の展開を理解できるようになる。

【授業計画・内容】

具体的な課題別にそれぞれの事例や場面を材料に精神保健福祉課題を理解した上で、面接・アウトリーチ・ケアマネジメント・チームアプローチなどの具体的技術とアプローチを総合的・包括的に用いて、課題解決のための支援をすることができる実践力を養う授業内容である。特に、医療と協働・連携する相談援助事例を体系的に取り上げる。

- 第1回 オリエンテーション：精神科ソーシャルワークにおける事例（事例検討の進め方）
- 第2回 ソーシャルワークのプロセス①：インテーク、契約、アウトリーチ等
- 第3回 ソーシャルワークのプロセス②：アセスメント・プランニング
- 第4回 ソーシャルワークのプロセス③：支援の実施、モニタリング、評価、終結
- 第5回 ソーシャルワークのプロセス④：社会資源の活用、ネットワークング、チームアプローチ、ケアマネジメント
- 第6回 支援課題別相談援助の理解①：医療に結びつける援助
- 第7回 支援課題別相談援助の理解②：地域移行支援
- 第8回 支援課題別相談援助の理解③：地域定着支援
- 第9回 支援課題別相談援助の理解④：医療観察法
- 第10回 支援課題別相談援助の理解⑤：権利擁護
- 第11回 支援課題別相談援助の理解⑥：就労支援
- 第12回 支援課題別相談援助の理解⑦：障害年金の活用、貧困、低所得等
- 第13回 支援課題別相談援助の理解⑧：セルフヘルプグループ
- 第14回 支援課題別相談援助の理解⑨：ピアサポート
- 第15回 まとめ～授業を通して学んだこと～

【授業実施方法】

基本的には個人演習・グループ演習とする（必要に応じて講義形式を取り入れる）。

【授業準備】

教科書を読み、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる精神障害者をはじめとする障害者の抱える問題に関心を持ち、ソーシャルワーク実践との関係について確認すること。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助実習、精神科ソーシャルワーク論、精神科リハビリテーション学ⅠⅡ、精神保健福祉援助技術各論ⅠⅡ、地域福祉論ⅠⅡ、福祉行財政と福祉計画

【教科書等】

日本精神保健福祉士養成校協会編：精神保健福祉援助演習〔基礎・専門〕（第2版）、中央法規出版、2016.

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物70%、グループ演習などへの取り組み状況30%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は高齢者福祉施設でソーシャルワーカーとして、利用者、その家族等への相談業務を経験している。実務経験から得たソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値を統合する能力についても高めていきたい。

【学生へのメッセージ】

精神保健福祉士としての課題は精神障害者の生活問題に対応するために社会的復権と人権擁護の役割を担い、社会復帰を妨げているといわれる障壁を取り除き、地域社会の体制を整えることが挙げられる。利用者との「かかわり」を大事にする専門職の実践への準備ととらえて演習に臨むこと。